

高齢化社会における新たな服薬管理方法 ～服薬支援機を導入してみた～

宝塚市・えがお De 薬局 宝塚店 琢磨 寛孝（薬剤師）

【背景】

高齢化が進む現在、65歳以上の4人に1人が認知症とその予備軍と言われている。そのような対象の服薬管理は介護者援助となっていることが多い。そこで、新たな服薬管理方法として、当社が開発した服薬支援機「お薬飲んでね！」を導入した。

【目的】

利用者のQOLの維持と、介護者の負担軽減を図ることを目的とする。

【方法】

施設の担当者に薬剤師が提案し、一定条件を設定した上で、該当する対象20名に服薬支援機の利用を開始し使用状況を確認した。

【結果】

20名中14名が継続利用でき、6名が利用中止となった。継続利用できている方は、その他の管理方法では飲み忘れや過量服用していたが支援機導入により、正確な服用ができ、症状の安定に繋がった。また配薬援助に対する負担が軽減したと介護者より意見をいただいた。

【考察】

服薬支援機は、条件の合う方にとっては非常にメリットのある管理方法である。今後も有効活用できるよう、引き続き担当者へ提案していく。